

# 第16回・第17回新株予約権を 用いたファイナンスに関する 補足説明資料

**カルナバイオサイエンス株式会社**



**証券コード : 4572**

- 本資料は、平成29年6月22日付で公表された「行使価額修正条項付き第16回及び第17回新株予約権（第三者割当て）の発行及びコミットメント条項付き第三者割当て契約に関するお知らせ」（以下「本お知らせ」という）の内容に関して、主要な項目を分かりやすくQ & A形式にまとめたものです。
- 各項目に記載されているページ数は、本お知らせにおいて該当するページを表していますので、ご参照ください。
- 本資料の取り扱いについては、10ページをご参照ください。

No.	質問	回答	参照 ページ
1	今回の資金調達の目的は何ですか？	<p>今回の資金調達は、複数有する当社の創薬プログラムにおいて、現在前臨床試験段階にあるBTK阻害薬プログラム及びTNIK阻害薬プログラム並びに今後前臨床試験段階に進む他の創薬プログラムの前臨床試験費用、さらに今後共同研究先の医療機関と協力して実施する医師主導型治験の費用及び社内体制の整備費用、加えてさらなる成長戦略を見据えて、今後創製を目指す新規パイプラインの研究開発及び導入費用等に充当することを目的として実施いたします。当社は、今回の資金調達により、当社の研究開発のさらなる迅速化を図るとともに、財務基盤の強化を図るなかで、事業価値の最大化を目指してまいります。</p>	3~4頁
2	調達予定額はいくらですか？	<p>当初の調達予定額は2,373百万円を予定しています。この金額は、当初行使価額で全ての本新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額であり、本新株予約権の行使価額が修正又は調整された場合には、上記金額は増加又は減少します。</p>	7~8頁

No.	質問	回答	参照 ページ
3	<p>どのようなことに今回調達する資金を利用するのですか？</p>	<p>① 開発化合物の前臨床試験          当社の創薬パイプラインにおいて、最適化研究が終了し開発化合物として選択した医薬品候補化合物について、前臨床試験を実施し、臨床試験へ進めるための前臨床試験実施費用に充当することを予定しています。</p> <p>② 開発化合物の臨床試験実施（第I相試験）          当社の創薬パイプラインのうち、当社の重点疾患領域である「がん」を対象としたパイプラインについては、治験申請に必要な前臨床試験の結果が揃い次第、共同研究先の医療機関と協力しながら、医師主導治験を実施していく予定であり、臨床試験の準備に伴う社内体制の構築及び試験実施にかかる費用に充当することを予定しています。</p> <p>③ 新規パイプラインの創製及び導入          当社の保有するキナーゼ創薬技術や細胞スクリーニング技術による新たな新薬候補化合物の探索にも注力し、継続的なパイプラインの創出をするための、新規化合物ライブラリの購入、新規誘導体の合成委託費、薬物動態や薬効試験等の外注委託費の支払い、社内における化学合成、薬理研究等の人件費、試薬・消耗品の購入費用、及び人員拡充等に充当する予定です。          さらにアカデミアやバイオベンチャー企業等との共同研究を通じて、キナーゼ以外の新規ターゲットに対するパイプラインの拡充を進めるための新規パイプラインの導入、共同研究に係る費用等にも充当する予定です。</p>	8～9頁

No.	質問	回答	参照 ページ
4	新株予約権とはどのようなものですか？	新株予約権を発行した株式会社（以下「当会社」という）に対して、行使することにより、当会社の株式の交付を受けることができる権利のことをいいます。新株予約権者は、新株予約権の行使の際に一定の行使価格を払い込むことにより、当会社に新株を発行させる、または、会社自身が保有する株式を取得することができます。	—
5	今回の資金調達方法を選んだ理由は何ですか？	<p>今回の資金調達方法は、当社が新株予約権の行使の数量及び時期を相当程度コントロールすることができるという特徴をもっています。</p> <p>第16回新株予約権については、当社に資金需要が発生し、新株予約権の行使を希望する場合には、一定の期間内に行使すべき新株予約権の数を指定することができ、一方で、株価動向等を勘案して当社が新株予約権の行使を希望しない場合には、新株予約権を行使することができない期間を指定することもできる手法です。</p> <p>第17回新株予約権については、当初の行使価額による行使を前提としておらず、原則として、一定程度株価が上昇したときに、行使価額を将来設定して調達を行うことを想定しています。</p> <p>上記のような特徴から、本新株予約権発行時において想定されている最大の希薄化に比べて不必要な希薄化は抑えられているものと考えています。</p>	6～7頁

No.	質問	回答	参照 ページ
6	新株予約権の行使期間はどのようになって いますか？	平成29年7月11日から平成31年7月10日までの2年間です。	16頁以降
7	第16回と第17回の新株予約権の主 な違いは何ですか？	<p>第16回新株予約権は「コミットメント条項付き新株予約権」であり、行使価額修正条項に基づき発行当初から株価状況に応じて効率的に資金調達を行い、コミットメント条項（行使指定条項）を通じて、必要に応じて早期に資金を調達することを目的としています。</p> <p>第17回新株予約権は「行使価額将来設定型新株予約権」であり、将来の株価動向、事業上の資金ニーズ、潜在的な希薄化等に応じて、タイミングを見て機動的に、資金調達を図ることを目的としています。</p>	4～5頁
8	今回の資金調達のデメリットはあり ますか？	<p>① 株式市場の環境に応じて、行使完了までには一定の期間が必要となること。</p> <p>② 株価が下落した場合、実際の調達額が当初の予定額を下回る可能性があること。</p> <p>③ 株価が下限行使価額を下回って推移した場合、調達ができない可能性があること。</p>	7頁

No.	質問	回答	参照 ページ
9	他の資金調達方法と比較して株価への影響はどうか？	<p>① 公募増資・新株の第三者割当 資金調達が一時に可能となる反面、同時に1株当たり利益の希薄化も一時に引き起こすため、株価に対する直接的な影響が大きいと考えられます。</p> <p>② 株価に連動して転換価額が修正される転換社債型新株予約権付社債（MSCB） 一般的に転換により交付される株式数が転換価額に応じて決定されるので、転換の完了まで転換により交付される株式総数が確定しないため、株価に対する直接的な影響が大きいと考えられます。</p> <p>③ 新株予約権発行時に目標株価として行使価額を設定する新株予約権（ターゲット・イシュー・プログラム等） 目標株価が株価の重石となって株価が上昇しないことが考えられます。</p> <p>④ 借入れによる資金調達 調達金額が負債となるため、財務健全性の低下が見込まれます。</p>	7頁
10	新株予約権が行使されるとどうなりますか？（株式、資金調達）	メリルリンチ日本証券により新株予約権が行使されると、当社の新株が発行され、同社に交付されます。	4頁

No.	質問	回答	参照 ページ
11	株式はいつ発行されますか？行使状況はどのように分かりますか？	新株予約権の行使により株式は即日交付されます。毎月初に、東京証券取引所の適時開示により、前月の行使状況をお知らせします。東京証券取引所が定める大量行使があった場合も、都度適時開示によりお知らせいたします。	—
12	希薄化の規模はどのくらいですか？	平成29年3月31日の総議決権数93,059個（発行済株式総数9,308,800株）に対する希薄化率は、第16回新株予約権は最大10.0%、第17回新株予約権は最大5.0% です。	6頁
13	希薄化は一気に進展してしまいませんか？	当社の株価水準や手元流動性に応じて、行使停止指定を行なうことができることから、不要な希薄化をコントロールすることが可能となっております。	4～5頁
14	割当先としてメリルリンチ日本証券を選んだ理由は何ですか？	様々な資金調達先及び調達方法を検討してまいりましたが、メリルリンチ日本証券より提案を受けた本スキームによる資金調達方法が、株価に対する一時的な影響を抑制しつつ、株価動向及び資金需要動向に応じた機動的な新株発行による資金調達を達成したいという当社のファイナンスニーズに最も合致していると判断しました。	12頁

No.	質問	回答	参照 ページ
15	資金調達が想定どおりに進まない場合、当社の対応はどうなりますか？	<p>市場における当社株価の動向等によっては、当社がメリルリンチ日本証券に行使指定を行っても、十分な資金を調達できない場合があります。本新株予約権の全部又は一部が行使されない可能性があります。</p> <p>このように本新株予約権によって十分な資金を調達することができなかつた場合には、別途の手段による資金調達の実施又は事業計画の見直しを行う可能性があります。</p>	9頁
16	今回、メリルリンチ日本証券へ貸株を行う予定はありますか？	当社及び当社の役員、役員関係者並びに当社の大株主からの貸株（株券貸借契約）を行う予定はありません。	13頁
17	メリルリンチ日本証券の本新株予約権を行使して取得する当社普通株式の保有方針はどうなっていますか？	同社は長期間保有する意思を有しておらず、当社の経営に関与する意図を有しておりません。	12頁
18	今期業績に与える影響はありますか？	平成29年12月期の当社の業績に与える影響は軽微です。	13頁

- 本資料は、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における、将来予想に関する記述につきましては、本資料の作成時点の目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、本資料の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。
- 当社が属する製薬業界等に関する記述については、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac（心臓）の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物科学と言われ、生物学（Biology）と生命科学（Life Science）から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀の初めに、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

## カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078) 302-7075 Fax (078) 302-6665

<http://www.carnabio.com/>

[ir-team@carnabio.com](mailto:ir-team@carnabio.com)